

二〇一一年一月三十一日
印刷
發行



第 94 卷 第 1 号 史学・地理学・考古学

特 集 民 族

史 学 研 究 会

京都大学大学院文学研究科内

特集 民 族

特集「民族」に寄せて……………吉 本 道 雅 (1)

論 説

ラピタ人の起源とオーストロネシア語族の

拡散……………石 村 智 (5)

同化と異化……………山 崎 岳 (38)

——明代広西の「孫鑑」と土官岑氏一族——

一九二、三〇年代南アフリカのカラード……………堀 内 隆 行 (76)

外交の民主化と国際協調主義……………酒 井 一 臣 (106)

——「国民外交」論を中心に——

宮武正道の「語学道楽」……………黒 岩 康 博 (125)

——趣味人と帝国日本——

メキシコにおける「先住民」の定義と

メキシコ市内旧先住民村落の「地元民」……禪 野 美 帆 (154)

研 究 動 向

チベット語文献『バシェ』研究の最前線……………岩 尾 一 史 (186)

書 評

永山修一著『隼人と古代日本』……………竹 森 友 子 (201)

S.A. Epstein, *Purity Lost: Transgressing Boundaries*

in the Eastern Mediterranean, 1000-1400……………高 田 良 太 (207)

北川勝彦編著『脱植民地化とイギリス帝国』……………山 口 育 人 (213)

2010年度史学研究会大会講演要旨

2010年度史学研究会大会・総会の記録

する」

講演者紹介と司会は、それぞれ中砂明徳評議員と金澤周作常務理事がつとめた。講演内容は本号に掲載されているので参照されたい。昨年に続き本年も盛況で、一五〇名以上の参加者を得ることができた。

公開講演ののち、吉川真司理事が閉会の辞を述べた。大会終了後、オープンな立食形式の懇親会が開かれた。

(文責 吉井秀夫)

史学研究会会則

(二〇一〇年二月二日改正)

第一条 本会は史学研究会と称する。

第二条 本会の事務所を京都大学大学院文学研究科内に置く。

第三条 本会は広く歴史に関心を持つ者が集まり、史学・地理学・考古学に関する研究を行うことを目的とする。

第四条 本会の事業は次の通りである。

1 総会・大会・例会等の会合

2 会誌『史林』等の発行

第五条 本会に次の役員を置く。

理事長一名、理事一五名以上三五名以内
(内常務理事四名)、監事二名、評議員

四〇名以上六〇名以内、委員若干名

第六条 役員は理事会及び評議員会によって選出され、総会の承認を受けるものとする。理事長は本会を代表し、会務を統括し、会員総会、理事会及び評議員会を招集する。理事は理事会を構成し、会務を処理する。とくに常務理事は、庶務・編集・会計・広報の各事務を担当する。監事は会計経理を監査する。

第七条 委員は理事長より囑託され、編集・庶務の実務を分掌する。

第八条 役員の任期は、委員(任期一年)を除き、二年とする。但し、再任をさまざまにしない。

第九条 本会は第三条に掲げた目的に賛同する者をもって会員とする。会員は次の二種類とする。

1. 正会員 2. 学生会員

第十条 会員は会誌『史林』の配布を受け、かつこれに投稿し、また総会に参加することができ。

第十一条 会員は、退会届を事務局に提出し、任意に退会することができる。また、会員が次の各号のいずれかに該当する場合には、退会したものとみなす。

(1) 本人が死亡し、または会員である団体が消滅した時

(2) 会費を三年間納入しない時

第十二条 会員は、所定の会費一年分を前納するものとする。会費の納入を二年分怠った時、雑誌の送付を停止される。さらに一年間会費の納入を行わない場合、会員の資格を喪失する。

第十二条 会員が既に納入した会費は返還しない。ただし一年分を超えて前納している場合には、一年分を超える部分を返還する。

第十四条 毎年秋季に大会を開き、また適宜例会を開く。会場等はその度にこれを定める。

第十五条 毎年秋季において総会を開き、会務の報告を行ない、承認を受ける。

第十六条 本会の経費は会費、事業収入及び寄付金を以て支弁する。会費は誌代を以てこれにあてる。

第十七条 本会の会計年度は四月に始まり、翌年三月に終わる。

附 則 本会則の変更は、会員総会の決議によるものとする。

但し会務執行に必要な細則及び物価変動

に基づく会費金額の変更は理事会がこれを行う。

※改定箇所を傍線で示した。

『史林』投稿規定

◇資格 本会員であること。

◇投稿受付原稿の種類、長さ

論説 1段組54字×19行の体裁で、

三三〇〇〇字以内

研究ノート 2段組29字×20行の体裁で、

二〇〇〇〇字以内

研究動向 2段組29字×20行の体裁で、

三三〇〇〇字以内

史料紹介 2段組29字×20行の体裁で、

三三〇〇〇字以内

書評・論文評 2段組、八〇〇〇字以内

紹介 3段組、一二〇〇字程度

◇いずれにおいても、本文や注だけでなく

謝辞や図表・翻刻を含めて、それぞれの

紙幅に収めること。

◇注は各章末に入れること。

◇「欧文タイトル」を添付すること。

◇論説には「要約」（四〇〇字以内）を添

付のこと。「要約」は上記の紙幅制限の

対象外とする。

◇論説および研究ノートの投稿者は、掲載

が決定した時点で、「欧文要約」（一六〇〇

〜八〇〇語程度）を提出すること。なお、

英文要約に限り、翻訳による作成依頼に

も応じるが、経費は投稿者負担とする。

◇投稿に際しては、①プリントアウト一部

もしくはPDFファイル、および②電子

データを送付する。電子データに関する

詳細は下記「補足」の（電子データ作成

要領）を参照。電子データを準備できな

い場合は、あらかじめ事務局まで連絡す

ること。

◇図版を用いる場合は、下記「補足」の

（図版作成要領）に従って作成、添付す

ること。

注意・編集委員会において、印刷技術上、

図版の修正や特殊活字の作成を要すると

判断し、これを業者に委託した場合には、

その経費の一部、数千円〜数万円を負担

していただきます。あらかじめご了承下

さい。

送り先…史林編集委員会

〒六〇六八五〇 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院文学研究科内 史学研究会

『史林』投稿規定「補足」

（電子データ添付要領）

・電子データは、フロッピーディスク、C

D-R、CD-RW、USBフラッシュメモ

リなどのメディアに保存して郵送する

ことを原則とする。郵送に不便があるな

どの事由で、メールによる投稿を希望す

る場合は、あらかじめ事務局に問い合わせること。

・本文の電子データは、マイクロソフト・

ワード、一太郎、テキストファイルのい

ずれかの形式で保存し、保存形式（OS

および使用ソフト）を明示すること。

・図版に電子データを使用する場合には、

300dpi以上の解像度とする。ソフト

（IllustratorやPhotoshopなど）やバー

ジョンについて事前に照会・確認をする

こと。

（図版作成要領）

・本文原稿中に図版の割付箇所を注記する

こと。

・仕上寸法は、最大で170mm×110mm（キャパ

ション込み）とすること。

・図および写真は、仕上寸法の二倍（面積四倍）程度で作成し、希望縮尺率を明記すること。

・図は、トレーシングペーパーや製図用ケント紙などに製図用インキで明瞭に描くこと。その際、線の太さを一定に保つため、製図用ペンを使用することが望ましい。

・図中の文字は写真植字を用いて印刷するので、鉛筆書きするか、上にトレーシングペーパーを重ね該当箇所に文字のみを書き入れること。また、インスタントレタリングやワープロ文字を原図に貼り付ける場合は、仕上段階の鮮明度を配慮すること。

・写真は、原版が十分に鮮明でコントラストが明瞭なものを選ぶこと。なお、巻頭にアート紙で印刷することを希望する場合は、割付・仕上等は編集委員会で調整する。その経費は投稿者負担とする。

・表は、仕上を配慮して、文字数や表現法を工夫すること。原表の掲載を希望する場合は、その旨を明記し、図版に準じた体裁を整えること。

注意：図表に不備がある場合は、投稿者に

修正を依頼するか、編集委員会が修正します（経費は投稿者負担となります）。

〈論文等の電子的公開について〉

・著者が論文等を任意のサーバーに、機関レポトリ等を使って公表する場合は、以下の条件を満たすことを要する。この条件を満たす限りにおいて、本会への承諾いは不要とする。

- イ) 『史林』の版面をそのままPDFファイルなどにして公開する場合は、掲載誌刊行後、二年を経過していること。
- ロ) 論文の出版を明らかにすること。
- ハ) 営利目的でないこと。

問合せ先：史学研究会事務局

SHR@bunkyo-u.ac.jp

(二〇一〇年一月改定)

受 贈 誌

(二〇一〇年四月二日)
二〇一〇年五月六日

法政史論（法政大学大学院日本史学会）三

六・三七

東北学院大学論集 歴史と文化（東北学院大学学術研究会）四五・四六

同朋大学佛教文化研究所紀要（同朋大学仏教文化研究所）二九

同朋大学佛教文化研究所報二三

史迹と美術（史迹美術同研究会）八〇三

史學研究（広島史学研究会）二六七

国立歴史民俗博物館研究報告（国立歴史民俗博物館）一五七・一五八

民俗学研究所紀要（成城大学民俗学研究所）三四

諸国叢書（成城大学民俗学研究所）二四

オリエント（日本オリエント学会）五二一

二

アジア研究所紀要（亜細亜大学アジア研究所）三六

立命館文学（立命館大学人文学会）六一六

考古学報（中国社会科学考古学研究所）二〇一〇一

藝林（藝林會）五九一

正倉院紀要（宮内庁正倉院事務所）三二

神戸薬科大学研究論集「JCR」(神戸薬科大学教養課程共同研究室) 一〇

哲學研究（京都哲學會）五八九

日本史研究（日本史研究会）五七二

国立台湾大學 考古人類学刊 (国立台湾大

學大学院人類学系) 七〇

日本学士院紀要 (日本学士院) 六四—三

栃木県立文書館研究紀要 (栃木県立文書

館) 一四

史學 (三田史学会) 七九—一・二

日本研究 國際日本文化研究センター紀要

(國際日本文化研究センター) 四一

皇學館大學紀要 (皇學館大學) 四八

年報近現代史研究 (近現代史研究会) 二

龍谷史壇 (龍谷大学史学会) 一三〇

日本歴史 (日本歴史学編集) 七四四

ANTHROPOLOGICAL SCIENCE (The

Official Journal of THE ANTHROPO-

LOGICAL SOCIETY OF NIPPON) 一

一八一—

大東文化大学漢学会誌 (大東文化大学漢学

会) 四九

国家學會雜誌 (国家学会事務所) 一三三—

三・四

中央研究院 歷史語言研究所集刊 (中央研

究院歷史語言研究所) 八一—一

東北文化研究室紀要 (東北大学文学研究科

東北文化研究室) 五一

東北文化資料叢書 (東北大学大学院文学研

究科東北文化研究室) 五

石炭研究資料叢書 (九州大学記録資料館産

業經濟資料部門) 三一

エネルギー史研究—石炭を中心として—

(九州大学記録資料館産業經濟資料部

門) 二五

日本学刊 JAPANESE STUDIES (中国社

会科学院日本研究所中華日本学会) 二〇

一〇・二

新潟産業大学人文学部紀要 (新潟産業大学

東アジア經濟文化研究所) 二一

東洋文化研究 (学習院大学東洋文化研究

所) 二二

会 告

本号は定価二〇〇〇円ですが、会員価
格は二〇〇〇円に致します。

編 集 後 記

あけましておめでとうございます。

新春の恒例となりました特集号、本年は
「民族」をテーマといたしました。グロー
バリズムという名のアメリカ中心主義が広
がるとともに、各地でもすれば強硬なナ
シヨナリズムも巻き起こっております。こ

のような現状を顧みますと、いまた「民
族」や「国民国家」という枠組みを改めて
考察する重要な時期に差し掛かっているよ
うに思われます。本号を通じて、皆様のご
研究に何がしかのきっかけを与えることが
できましたら幸いです。ぜひご味読くださ
い。(佐野光直)

◆史学研究会ホームページ・アドレス

<http://www.shigakukenhvukai.jp/index.html>

(移転・リニューアルいたしました。)

本誌には独立行政法人日本学術振興会
平成二二年度科学研究費補助金(研究
成果公開促進費)が交付されております。

二〇一一年一月二五日印刷
二〇一一年一月二二日発行

史 林 第九四巻第一号(通巻第四八五号)

京都市左京区吉田本町京都大学文学部内

電話 (〇七五) 七五三一・二七八七

発行人

史 学 研 究 会
振替京都 〇一七〇二二五二番
理事長 夫 馬 進

印刷所

中村印刷株式会社
京都市南区上鳥羽藤田二九

Special Issue
NATION and ETHNICITY

YOSHIMOTO Michimasa, Foreword (1)

Articles :

ISHIMURA Tomo, The Origin of the Lapita Peoples and the Dispersal
of Austronesian Peoples (5)

YAMAZAKI Takeshi, Assimilation and Alienation:
The *Yao-Zhuang* 猺獞 of Guangxi Province during the Ming Period
and the Cen 岑 Family the Chieftain Official (38)

HORIUCHI Takayuki, South African Coloured Identity
in the 1920s and 1930s (76)

SAKAI Kazuomi, The Influence of Democracy on the
Japanese Diplomatic Theories in the 1920s:
The Case of 'National Diplomacy' (106)

KUROIWA Yasuhiro, Miyatake Masamichi, 'A Dilettante Linguist':
The Life of a Highbrow in Imperial Japan (125)

ZENNO Miho, The *Nativos* of the Former Indigenous Villages
in Mexico City in Relation to the Definition of
"Indigenous Peoples" (154)

Academic trends :

IWAO Kazushi, Current Research Trends on the *Testament of Ba* (186)

Book Reviews :

NAGAYAMA Syuichi,
The Hayato and Ancient Japan (TAKEMORI Tomoko) (201)

S. A. Epstein,
*Purity Lost: Transgressing Boundaries in the Eastern
Mediterranean, 1000-1400* (TAKADA Ryota) (207)

KITAGAWA Katsuhiko (ed.),
Decolonization and the British Empire (YAMAGUCHI Ikuto) (213)

Miscellaneous :

THE SHIRIN
or the
JOURNAL OF HISTORY

Vol. XCIV No. 1

January 2011

Special Issue
NATION and ETHNICITY

Published
by
THE SHIGAKU KENKYUKAI
(The Society of Historical Research)
Kyoto University, Kyoto, Japan

定価 2,000円(税込)

ISSN 0386-9369